

# **令和4年度事業活動報告書**

**令和 5 年 9 月**

**産業看護研究センター**

## 目 次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| はじめに .....                        | 1  |
| I. 活動報告 .....                     | 3  |
| II. 成果報告 .....                    | 5  |
| 《自主研究》                            |    |
| ・産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくり           |    |
| ・小規模事業場における健康経営の有り様と産業保健専門職に関する期待 |    |
| ・産業保健の側から見た産業保健と地域保健の連携に関する文献検討   |    |
| III. 参考資料 .....                   | 14 |

はじめに

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、令和5年5月に感染症法上「5類感染症」になりました。日常も脱マスクの生活に戻りつつありますが、我々の生活様式に与え続ける影響が大きいことは否めません。また、労働災害発生件数は微増傾向に転じ、メンタルヘルス対策や過重労働対策が引き続き重要な課題である一方で、健康経営という従来の産業保健活動と異なるアプローチも浸透してきました。産業保健・産業看護活動もこれらの動向をとらえた新たな対応が求められてくることを鑑みると、四日市看護医療大学産業看護研究センターが果たす役割はますます大きくなると考えています。

さて、本センターでは、シンクタンク機能、情報発信機能、地域連携機能の3つの柱で活動を展開しています。令和4年度は、シンクタンク機能として、3件の自主研究を実施しました。「産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくり」「小規模事業場における健康経営の有り様と産業保健専門職に関する期待」「産業保健の側から見た産業保健と地域保健の連携に関する文献検討」のそれぞれの研究が、産業保健の推進、産業看護の専門性構築を追求した内容です。これらの研究は働く人びとの健康の保持増進と企業の生産性の向上、そして地域包括的に産業保健を考える基盤となる研究であったと考えます。

情報発信機能としてはホームページによる活動報告のほかに、2つの原著論文と3つの学会発表を行うことができました。学術的な活動によって、産業看護研究センターを地域の皆様だけでなく看護医療専門職に知っていただく貴重な機会となりました。

地域連携機能としては、公開講座として四日市商工会議所と共催で「健康経営と産業保健～経営者と働く世代を元気に！」（講師：柴田英治学長）として開催しました。健康経営が目指す方向と産業保健活動のマッチング、中小企業での健康経営の推進に関する具体的な講座の開催ができました。出前講座も計2回開催し、特に健康経営に資する活動として伊勢市の企業からの依頼であったことから、徐々に産業看護研究センターの役割も広がりつつあると考えます。三重産業看護研究会の活動も本学のオンラインシステムを利用して開催、また三重産業医会とのコラボレーションにより災害看護について学習の機会を得ました。三重県下の産業看護職の皆様の実践・研究活動を支援させていただいたと考えます。

令和5年度より、研究委員・運営委員を北海道、福岡から新たに迎えています。幅広い人材で、今後も産業看護の発展のための研究推進および地域貢献にますます力を入れて取り組むたいと考えています。産業看護研究センターへの引き続きのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



令和5年7月吉日

産業看護研究センター長 後藤 由紀

## I. 活動報告

### 自主研究

---

- ・産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくり
- ・小規模事業場における健康経営の有り様と産業保健専門職に関する期待
- ・産業保健の側から見た産業保健と地域保健の連携に関する文献検討

### 地域連携

---

#### ・出前講座

##### ・食生活セミナー「食生活と体重」

講師:後藤由紀(四日市看護医療大学産業看護研究センターセンター長)

日時:令和4年8月17日 9:30-10:30

場所:伊勢市内企業

##### ・睡眠セミナー「睡眠に関する講座」

講師:一尾麻美(四日市看護医療大学産業看護研究センター研究員)

日時:令和4年10月14日 9:00-10:30

場所:伊勢市内企業

#### ・公開講座(四日市商工会議所共催)

##### ・四日市商工会議所企業活動に役立つ講演会「健康経営と産業保健～経営者と働く世代を元気に！」

講師:柴田英治(四日市看護医療大学学長)

日時:令和5年2月24日 14:00-16:00

場所:四日市商工会議所

#### ・三重産業看護研究会の開催支援(ハイブリット形式で3回実施)

##### ・第55回「これからの産業保健」について

講師:高崎正子(キオクシア(株)四日市工場)

日時:令和4年7月1日 18:30-20:00

場所:四日市看護医療大学(ZOOMでのハイブリット)

- ・第56回「災害時の看護 ～有事の際に役立つ視点とは～」(三重産業医会との共同企画)

講師:多次淳一郎(四日市看護医療大学准教授)

日時:令和4年10月7日 18:30-20:00

場所:四日市看護医療大学(ZOOMでのハイブリット)

- ・第57回「魅せる！伝わる！文章作成」～テレワークで役立つ報告・連絡をするために～

講師:飯田由佳(東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)人事企画部)

日時:令和5年2月10日 18:30-20:00

場所:四日市看護医療大学(ZOOMでのハイブリット)

## 情報発信

---

- ・ホームページ <https://www.y-nm.ac.jp/yrro/rcohn/index.html>
- ・日本産業看護学会会誌論文投稿
- ・第19回日本ヘルスプロモーション学会・第11回日本産業看護学会合同学術集会／大会での発表
- ・2022年度日本産業衛生学会東海地方会学会での共同発表

## Ⅱ. 成果報告

### 《自主研究》

## 産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくり

主任研究者：河野啓子

分担研究者：杉崎一美 後藤由紀 畑中三千代 加藤睦美 畑中純子  
高田真澄 工藤安史



## 自主研究報告：仕事と治療の両立支援に関する研究

### 1. 研究体制

主任研究者を河野啓子、分担研究者を杉崎一美、後藤由紀、畑中三千代、加藤睦美、畑中純子、高田真澄、工藤安史が務めた。

### 2. これまでの研究経過

超高齢社会の現在、産業現場でも高齢化が進み、疾病の治療を行いながら就労している労働者が増えている。これらの人々への看護の質を上げるためには、産業看護職と臨床看護職との連携が必要と考える。しかし、両者の連携に関する文献は少なく、連携の実態・推進に関する文献もごく限られている。これらの実情を受けて、産業看護研究センターでは2018年に臨床看護職を対象に産業看護職との連携の実態を、2019年には産業看護職を対象に臨床看護職との連携の実態を調査した。結果は臨床看護職、産業看護職ともに連携の必要性を認識しているものの、実際には十分な連携ができていないことが明らかになっている。このため、両者の連携を促進するための具体的な仕組み作りが必要と考え、2020年、2021年には、関連の文献レビューをもとに、両者の連携の仕組みづくりについて、検討した。

### 3. 2022年度の研究

2021年度の研究結果を受けて、本年度は現在治療と仕事の両立支援に携わっている、産業看護職、臨床看護職各5名に協力をいただき、活動の中で感じている両立支援の促進要因・阻害要因、今後必要とされる仕組みなどについて、インタビュー調査を行った。その結果、両立支援における両者の連携を進めるために必要な仕組みとして「看護職自身に関すること」「看護職が属しているチームに関すること」「チームが属している組織に関すること」「国の制度に関すること」の四つの視点からの検討の必要性が示唆された。これらについては、研究結果を学会報告し、学術誌に投稿した。

### 4. 今後の研究活動

2023年度は、2022年度の研究で得られた「産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくり」の示唆に加えて、文献レビュー・ハンドサーチを強化し新たな知見を得、それらをもとにブレインストーミングを行い、方策案を作成する。その案をデルファイ法で検証し、連携の方策を見出す。

2024年度以降の研究では、「治療と仕事の両立支援における両者の連携」のみでなく、両者の看護ケアの質を高めるために、「日常業務全般にわたっての両者の連携」のあり方についても検討していきたいと考えている。

## 小規模事業場における健康経営の有り様と 産業保健専門職に関する期待

主任研究者：後藤由紀

分担研究者：河野啓子 萩典子 大谷喜美江 澤木美貴 市丸麻衣子  
一尾麻美



自主研究報告：小規模事業場における健康経営の有り様と産業保健専門職に関する期待

### 1. 研究体制

主任研究者を後藤由紀、分担研究者を、河野啓子、萩典子、大谷喜美江、澤木美貴、市丸麻衣子、一尾麻美の7名で実施した。

### 2. これまでの研究経過

中小規模事業場の産業保健看護活動は保健専門職の不在など大企業に比べると一般的に脆弱であるが、近年の健康経営への関心の高まりにより小規模事業場においても健康経営銘柄の取得がおこなわれている。

我々は昨年度、小規模事業場へのインタビューにより健康経営を通じた産業保健の有り様と産業保健専門職に関する期待について、「経営者の身近な人々の疾患や退職」と「異業種間でのコミュニケーション」を通じて「従業員の幸せ」と「会社の成長」を期待して産業保健サービスを展開していた。その一方で「手厚い産業保健事業をおこなっていても従業員の無理解」や「メンタルヘルスの取り組み成果がすぐに目に見えない」といった悩みを抱えつつ、「小規模事業場であっても産業保健活動を手厚くおこなう事への気概」という経営者の考えと「同業他社の健康経営の導入や推進」を喜びながら健康経営を展開していることが分かった。さらに、「健康経営を知って産業保健を活性化させたのではなく、経営者の経営理念と活動が健康経営にマッチした」のであり、「健康経営取得のために事業展開したわけではない」が「認証を頂くという喜びとその責任」も感じていることも明らかになった。

産業保健専門職に対しては、「職場背景を理解した保健指導の実施」や「タイムリーで気軽に相談できるような関係性の構築」「継続的に支援できる体制」を求めている一方、「産業看護職の役割や活用方法が分からないため」具体的にどのような期待があるかわからない状況もあることが明らかになった。

この結果は、これまで小規模事業場の産業保健活動は脆弱で産業保健上の課題だと一般的に考えられてきた現状に対して、経営者の考えにより産業保健活動が充実できる可能性、さらに「健康経営」という仕組みによって小規模事業場の産業保健活動を活性化できる可能性と看護職等の産業保健専門職の活動周知の必要性が明らかになった。

### 3. 2022年度の研究

この研究結果を学会等で発表・周知することによって、研究者等から広く意見を求め論



文作成に繋げることにした。

2022年11月に開催された第19回日本ヘルスプロモーション学会・第11回日本産業看護学会合同学術集会／大会（於：北九州）で澤木美貴が「小規模事業場における健康経営の有り様と産業保健専門職に関する期待」を報告した。その結果、開業保健師を活用することも小規模事業場の産業保健を活性化するには有用であるとの意見が寄せられた。その他、小規模事業場だけでなく産業医活動を展開するうえでは産業看護職の活用が必要ではないかといったコメントもあった。これらの意見は、小規模事業場など産業看護職を含む産業保健専門職が雇用されていない企業における健康経営を推進するためにも有用と考え、今後考察に生かしていくこととした。

#### 4. 今後の研究活動

上記の研究成果を論文にまとめ報告する。また、本研究の結果を参考に事業場が健康経営を取得するうえで影響する要因や産業保健専門職へのニーズを明らかにする。

産業保健の側から見た  
産業保健と地域保健の連携に関する文献検討

主任研究者：大谷喜美江

分担研究者：後藤由紀 榎本喜彦 河野啓子

自主研究報告：産業保健の側から見た産業保健と地域保健の連携に関する文献検討

## 1. 研究体制

主任研究者を大谷喜美江、分担研究者を後藤由紀、榎本喜彦、河野啓子が務めた。

## 2. これまでの研究経過

第四次国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））を背景に、地域保健と産業保健の健康情報と保健事業を共有し、より効果的・効率的な保健事業を展開すべく、地域・職域連携推進事業が実施されている。地域・職域連携推進事業の関連法規には地域保健法や健康増進法があり、その連携においては、地域・職域連携推進ガイドラインも定められている。このように地域保健と産業保健の連携は、地域保健主導で、国の方針に基づくトップダウン型で展開されてきた経緯がある。そのため多くの先行研究は地域保健側からみた地域職域連携に関する内容であり、産業保健側の視点からも地域職域連携に関する活動実態を整理する必要がある。

2022年度は、今後のさらなる研究に向けた示唆を得るべく、産業保健側から見た地域職域連携に関する活動実態を文献から系統的に整理することを目標とした。

## 3. 2022年度の研究

複数の論文・研究報告データベースを用い、産業保健側からみた地域職域連携の活動実態を整理した。原著論文が寡少であったため、把握する論文の種別は原著に限らず広く収集し、産業保健側の地域職域連携に関する記述がある文献を該当文献とした。

研究メンバー間で協議のうえ、得られた文献動向を整理して要約表を作成した。要約表の分析軸には連携の実施背景、主たる担当者の職種、連携内容などを設け、各項目の傾向を記述的に把握した。

産業保健側からみた地域職域連携活動に関し学術論文としてまとめられた文献は寡少であった。産業看護職が地域へ働きかける活動の内容や抱えている実践上の課題について、実事例をもとにした質的研究の蓄積が重要であると思われる。

## 4. 今後の研究活動

上記の研究成果を論文にまとめ報告する。産業保健側からみた地域保健との連携実態に関する先行研究が少ないことから、今後は産業看護職を対象とした地域保健との連携に関するインタビュー調査を計画する。

### Ⅲ. 参考資料



＜学術学会誌投稿＞

・後藤由紀、河野啓子、畑中純子、畑中三千代、加藤睦美、高山直子：病院勤務看護師における産業看護職との連携に関する認識・経験、日本産業看護学会誌 第9巻第1号、2022、p22-30.

・後藤由紀、加藤睦美、萩典子：看護系大学教員のワーク・エンゲイジメント活性化のための意識、日本産業看護学会誌 第9巻第2号、2022、p43-52.

＜学術学会発表＞

・畑中三千代、河野啓子、杉崎一美、後藤由紀、加藤睦美、畑中純子、高田真澄、工藤安史：産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくり、第19回日本ヘルスプロモーション学会・第11回日本産業看護学会 合同学術集会／大会、2022.11

・澤木美貴、後藤由紀、河野啓子、萩典子、大谷喜美江、市丸麻衣子、一尾麻美：小規模事業場における健康経営の有り様と産業保健専門職に関する期待、第19回日本ヘルスプロモーション学会・第11回日本産業看護学会 合同学術集会／大会、2022.11

・島田理子、宮村えりか、花井理子、奥田真弓、飯田由佳、後藤由紀：三重産業看護研究会を通じた大学と産業看護職との連携、2022年度日本産業衛生学会東海地方会学会、2022.11

## 令和 4 年度事業活動報告書

令和 5 年 9 月発行

産業看護研究センター長

運営委員長

令和 4 年度 センター長

運営委員長

運営委員 (50 音順)

後藤 由紀

杉崎 一美

後藤 由紀

杉崎 一美

一尾 麻美

市丸麻衣子

榎本 喜彦

大谷喜美江

加藤 睦美

工藤 安史

河野 啓子

澤木 美紀

高田 真澄

藤井 夕香

萩 典子

畑中 純子

畑中 三千代

編集・発行 四日市看護医療大学

地域研究機構 産業看護研究センター

〒512-8045 三重県四日市市萱生町 1200 番地

Tel: 059-340-0705 Fax 059-361-1401

yrro@y-nm.ac.jp

<https://www.y-nm.ac.jp/yrro>